

健全な生育を、は種時からしっかり守る。

# きれいなツヤ肌の だいこんにしあげる



手取り収入を左右する、厄介なキスジノミハムシに、致命傷を作させない。

根から吸収された卓効成分が、  
だいこんの内側から、害虫をブロック！

極微量の経口取り込みで、  
害虫の加害を、即停止！

ユーザー証言！



北海道恵庭市／有限会社五東農園  
五東 英一さん

キスジノミハムシの被害が激減。  
だいこんを約2ヶ月間、きちんと守ってくれる。  
秀品率が上がり、収益が安定するから、  
北海道のだいこんの害虫防除体系には必須。

ユーザー証言！



鹿児島県南九州市／  
有限会社有村青果  
東村 寿史さん

目に見えて品質が  
向上して大きく生育し、  
安定した収穫に！

ユーザー証言！



千葉県袖ヶ浦市／  
株式会社田中農園  
(代表) 田中 佳洋さん  
(副代表) 田中 将洋さん

1剤で複数の問題害虫が予防できる。  
秀品率と作業効率が向上して、  
収益がプラスになったのが、最大のメリット。



だいこん播溝土壌混和処理 殺虫剤

ジアミド剤のプロ  
FMCの卓効成分  
シアントラニプロール  
(通称:サイアジビル®)  
0.5%配合!

ピンロツン® 粒剤  
オメガ

powered by  
CYAZYPR®  
ACTIVE INGREDIENT



使いやすい、  
さらさらの粒剤で、新登場！

特長 1

手取り収入を左右する、厄介なキスジノミハムシに、致命傷を作させない。

特長 2

根から吸収された卓効成分が、だいこんの内側から害虫をブロック。

特長 3

極微量の経口取り込みで、害虫の加害を即停止。

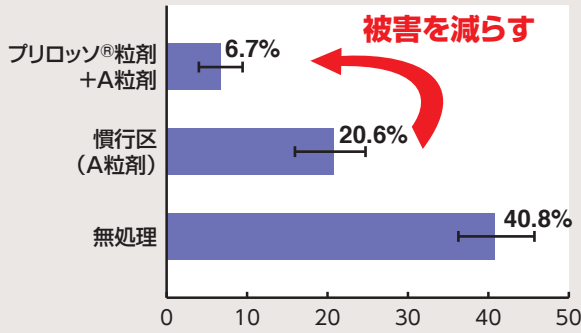


キスジノミハムシ

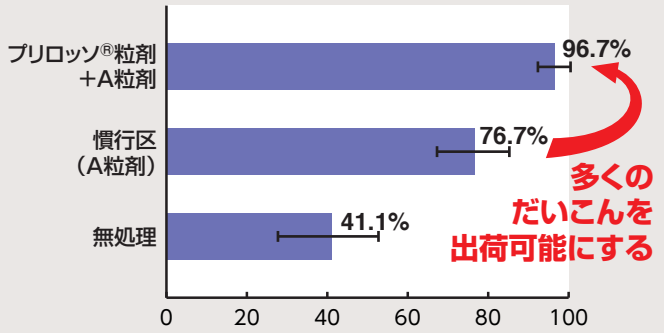
## キスジノミハムシに対する防除効果

### 鹿児島県での試験事例

#### ●被害度



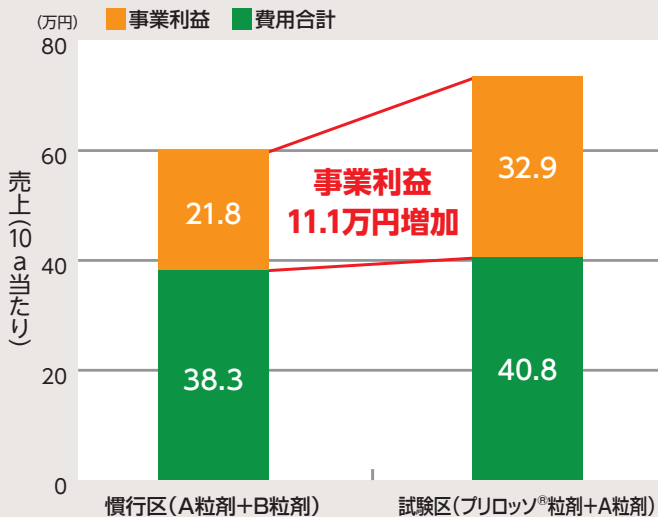
#### ●出荷可能根率(%)



2018年 鹿児島県農業開発総合センター 大隅支場  
 供試品種：夏天下  
 播種時期：9月7日播種  
 供試薬剤：プリロツン<sup>®</sup>粒剤 (6kg/10a 播種時播溝土壌混和、地表面から深さ5cm付近)  
 A粒剤 (4kg/10a 播種時播溝土壌混和、地上表面付近)  
 散布剤：なし  
 栽植密度等：畦間130cm、条間40cm (2条播種) 白黒ポリマルチ栽培  
 供試機：播種同時局所施用機 (2剤用)、車速運動施肥機、同時穴開シーダマルチャ  
 考察：キスジノミハムシの発生が多い9月播種でも、プリロツン<sup>®</sup>粒剤とA粒剤の併用で生育期の散布を行わなくても被害抑制効果が認められた。ただし、生育期の散布を組み合わせた方がより効果が安定する場合もある (本種の発生タイミングと防除の時期)

**1,120本/10a収量増加!**  
 (慣行防除と比較)  
 (5,600本/10a栽培と仮定)

### 長野県での試験事例



**13.6万円/10a売上増加!**  
**11.1万円/10a利益増加!**  
 (慣行防除と比較)

2019年 長野県 北信農業改良普及センター  
 播種時期：6月19日播種 (実証区)、6月20日播種 (慣行区)  
 供試薬剤：実証区：プリロツン<sup>®</sup>粒剤 (6kg/10a)、A粒剤 (4kg/10a)  
 慣行区：B粒剤 (6kg/10a)、A粒剤 (4kg/10a)  
 処理方法：播溝土壌混和  
 散布剤：慣行散布  
 栽植密度等：畦間120cm、株間30cm、条間45cm (2条播種)  
 供試機：播種同時局所施用機、施肥機  
 考察：被害度は慣行区が13.3、実証区が4.4で、防除効果は実証区が明らかに高いと考えられた。実証区は慣行区と比べ農業薬剤費、減価償却費等生産原価は上がるが、キスジノミハムシの防除効果が高く、出荷可能率が上がるため、最終的な事業利益は慣行区を上回ると考えられる。

## プリロツソ®粒剤オメガ ユーザー証言!

### 北海道恵庭市 五東 英一さん

お兄様、ご両親、パートさん7名とともに有限会社五東農園を経営。だいこん17haのほか、ばれいしょ、小麦、だいず、てんさい、かぼちゃ、キャベツなど合計80haを作付。

## キスジノミハムシの被害が激減。だいこんを約2ヶ月間、きちんと守ってくれる。秀品率が上がり、収益が安定するから、北海道のだいこんの害虫防除体系には必須。

### だいこん畑がまるごと キスジノミハムシにやられて、 全量が規格外になったことも

大消費地札幌にほど近い恵庭市で、だいこんをはじめ、ばれいしょ、小麦、野菜類などを手がけ、ご家族で管理作業を役割分担して経営されている有限会社五東農園。だいこんでは、主に播種作業を担当されている五東さんに、栽培や防除の課題についてお話を伺いました。

栽培の課題については「北海道では5～6月に急に気温が下がることがあって、そうすると花芽がついて抽苔(ちゅうたい)しちゃうんです。収穫できても硬くなってしまって、加工品としても出荷できないこともある。抽苔に強い品種もあるけど、それはそれで根長が伸びすぎて出荷箱に入らないリスクが出てくる。悩ましいですね」とおっしゃいます。

防除の課題の方は、キスジノミハムシからいかに上手く守りきるか。これには「過去に強烈な苦い経験がある」と五東さん。

「5年前、50aのだいこん畑がまるごとキスジノミハムシにやられて、全量が規格外になってしまいました。播種時に粒剤の殺虫剤を処理していたんですが防除しきれ

なかった。『もっと効果が高く確実にだいこんを守れる薬剤が要る』と痛感して、必死にJAや知人に情報を聞いて回りました。そのときに『プリロツソ®粒剤はいいよ!』とすすめられたんです」。

### キスジノミハムシの被害が激減。 約2ヶ月間、だいこんをきちんと 守ってくれる。確実に秀品率が上がり、 収益が安定して高くなった

「プリロツソ®粒剤に替えてから、キスジノミハムシの被害が劇的になくなりました。4月上旬に播種しただいこんは、トンネルを外す5月末まで防除ができないんだけど、その無防除の約2ヶ月間、プリロツソ®粒剤がだいこんをきちんと守ってくれているという感じ」。

キスジノミハムシの被害がほとんどなくなったことで、収穫がぐっと安定してきた、と五東さん。「圃場や時期によって多少違うけど、B品がほとんど出なくなって、確実に秀品率が上がりましたね。だいこん全体の収益が安定して高くなってきた」。

また、「一番の問題害虫はキスジノミハムシだけど、プリロツソ®粒剤はコナガとかアオムシとか色々な害虫にも効いてますね。まったく見かけませんから」とおっしゃいます。

### より使いやすいさらさらした 粒剤のプリロツソ®粒剤オメガ。 北海道のだいこん栽培に マッチするから防除体系に必須

より使いやすい粒になった「プリロツソ®粒剤オメガ」を使用されています。「薬剤の粒がさらさらしているところがいい。スムーズに土壤混和できるよね」とおっしゃいます。

恵庭市のだいこんは、6月上旬～10月下旬の4ヶ月以上、安定して出荷できるのが強み。「うちのだいこんは4月上旬～8月中旬に播種するから、そこでプリロツソ®粒剤オメガを使うんだけど、北海道のだいこん栽培にマッチしているという感じ。さっきも言ったけど、気温が低い4月上旬～5月中旬にマルチを敷いてトンネルで被覆して、その間ずっと大事なだいこんを守ってくれるから」。



だいこんの播種などで大型トラクターが活躍

「散布剤による防除までしっかり橋渡ししてくれる。プリロツソ®粒剤オメガは、北海道のだいこんの害虫防除体系には必須の存在になると思うよ」と五東さん。家族それぞれの力を結集して、多品目を送り出す能力をますます高めていきたい、と真摯なまなざしで将来を見据えていらっしゃいました。

※コメントは取材当時の個人の感想です。本内容は2023年5月取材時のものです。

取材動画はこちらから→



営農の良きパートナー JA道央 恵庭資材店の伊東良馬さんと

五東さんは昨年秋からプリロツソ®粒剤が

プリロツソ®粒剤オメガ  
ユーザー証言!



千葉県袖ヶ浦市 株式会社田中農園

代表 **田中 佳洋**さん 副代表 **田中 将洋**さん

長男の佳洋さんと次男の将洋さんが中心となり、2020年に法人化。30名のスタッフとともに、だいこん17ha(冬自慢、春宴など)、えだまめ6ha、らっかせい3haを作付する。

**1剤で複数の問題害虫が予防できる。  
秀品率と作業効率が向上して、  
収益がプラスになったのが、最大のメリット。**

**重要害虫のキスジノミハムシ、  
アブラムシや、通年で発生する  
ネキリムシ、アオムシ、  
ハイマダラノメイガも要注意**

代々続くだいこん農家で、17haと大規模な経営を手がける田中さんご兄弟。11月～翌年3月どりの秋冬だいこん、4～5月どりの春だいこんを複数の取引先に販売していらっしゃいます。

契約栽培の取引も多いため、求められる秀品率や規格の達成は必須です。その達成を妨げ、選別作業の効率を下げる病害虫は、経営上の死活問題。ネキリムシ、アオムシ、ハイマダラノメイガなどシーズンを通して発生する害虫はもちろん、8～9月播種の作型でとりわけ気をを使うキスジノミハムシ、アブラムシは徹底防除を心がけているとおっしゃいます。

田中農園の防除スケジュールは、播種前



プリロツソ®粒剤オメガ  
ユーザー証言!



鹿児島県南九州市  
有限会社有村青果 部長 **東村 寿史**さん

青果物の卸売り、生産などを手がける(有)有村青果では、だいこん45ha、かんしょ50ha、キャベツ40ha、ごぼう5ha、ばれいしょ3haなどを自社で生産するほか、契約農家から集荷した青果物を加工会社へ出荷。東村さんは主にだいこんを担当。

**目に見えて品質が**

**キスジノミハムシの食害で  
収穫をあきらめることも**

有限会社有村青果では、契約農家の面積を含めると65haのだいこんを生産・集荷されています。「できれば近いうちにもう10ha増やしたい」と同社部長の東村さん。「100haが目標です。チャンスがあればチャレンジしたいですね」と**規模拡大に意欲的です。その大前提となるのが、品質・収量の安定。**なかでも大事なのが、害虫防除なのだとおっしゃいます。

**「特にキスジノミハムシの防除は重要**ですね。9月播種と1～2月播種のだいこんは、防除次第で被害が拡大しがちなので要注意です。

以前はキスジノミハムシの食害で、途中で収穫をあきらめてしまうほど大きな被害が出る年もあったのだとか。何とか手を打たねば、と解決策を案じていた時に

に土壌処理殺虫剤、8月下旬～翌年3月中旬までは殺虫剤を2種混用して播種時処理。生育期には2回防除を行い、11月～翌年5月にかけて収穫作業。**生育期の2回目の防除に、4年前からベネビア®ODを愛用**していらっしゃいます。

## 例年害虫発生が多い条件の畑なのに、優れた防除効果が長く持続

田中農園では地域の栽培技術確立のため、千葉県農林水産部君津農業事務所とともに**2021年の秋、プリロッソ®粒剤オメガの現地試験を実施**。以前から使用している他の粒剤2種を混用した慣行区と比較した結果、プリロッソ®粒剤オメガの優れた効果に驚かれたとのこと。

「慣行区の圃場と比べて、プリロッソ®粒剤オメガの試験圃場は日影が多くて、**例年害虫の発生が多い条件の悪い畑。にもかかわらず秀品率の高さは比較した慣行区と同じでした。キズや形、病害虫の被害などで廃棄するだいこんも、慣行区よりずっと少なかった**。全般的に、プリロッソ®粒剤オメガの防除効果には、目を見張るものがありました」と将洋さん。

「以前は3種の薬剤を混用していた時期もあり、**1つの剤で幅広い害虫を抑えられ**

**れば、薬剤の混用作業が不要、総合的な害虫防除管理が楽にできる**、などのメリットが生まれる」と佳洋さんもおっしゃいます。

こうした現地試験を経て田中農園では、2022年8月末から本格的にプリロッソ®粒剤オメガを導入されました。「主に秋冬だいこんでは播種の2～3週間後に1回目の防除を行いますが、**3週間以上は十分に残効**がありますね。これから10月以降に播種する分は、本圃での1回目防除が播種1ヵ月後まで空いてしまうので、プリロッソ®粒剤オメガの残効はホントに重宝」と佳洋さん。

## 秀品率、収量が向上。高品質のだいこんが揃うから、選別作業が効率化。雇用コストも低減

今まで播種時に処理していた他粒剤2種混用と、プリロッソ®粒剤オメガでは、単純にコストだけを比較すればほぼ同等とのこと。その上で、**プリロッソ®粒剤オメガを選ぶ理由は、“生産性の向上”**と将洋さんはおっしゃいます。

「プリロッソ®粒剤オメガの圃場は、**明らかに秀品率が高まり、収量が増える**。廃棄する分が少なくなるから、**反当りの収穫**



**本数も増えます。高品質のだいこんが揃うから、収穫後の選別作業や箱詰め作業が楽になる**。その結果、うちのスタッフの作業時間が短縮されて、雇用コストが減らせ、**最終的に収益がアップ**するんです」と分かりやすく説明くださる将洋さん。「将来的には、だいこんや他の野菜も含めた当園の野菜ブランドの確立を目指したい。もっともっと多くの消費者に、当園の美味しい野菜を食べてもらいたいです」と語るお二人。ご兄弟ならではの強い絆とエネルギーな取り組みに、大きな可能性をひしひしと感じた取材でした。

※コメントは取材当時の個人の感想です。本内容は2022年10月取材時のものです。

取材動画はこちらから➔



## 向上して大きく生育し、安定した収穫に。

出会ったのがプリロッソ®粒剤でした。

## 目に見えて品質が向上して大きく生育し、安定した収穫に

東村さんは、以前から使用していた他殺虫剤を播種直前に処理した後、施薬機を



取り付けたうね立て播種機で、プリロッソ®粒剤を播種土壌混和されています。「まず驚いたのは、プリロッソ®粒剤の**キスジノミハムシへの効果の高さ**です。目に見えてだいこんの**品質が向上して大きく生育し、安定した収穫ができる**ようになりました。以前と比べて**反収も800kg向上、売上げで言うと1割ほどのアップ**です。加工用で45haのだいこんをつくっているの、反当りの売上げが1割上がるというのは、全体で見ると相当大きなメリットになります」。

東村さんが、プリロッソ®粒剤を使い始めて実感したもう一つのメリットは、キスジノミハムシに対する残効の長さです。

「播種1ヶ月後ぐらいでだいこんを抜いてみたら、食害が全くない。本当にきちんと防除できているし、**少なくともしっかり1ヶ月は残効がある**と感じたんです。播種後の生育期防除のうち、**最初の1回を省けた圃場もありました**」。

初めてプリロッソ®粒剤を使用してから今年で5年目。今では全圃場で、プリロッソ®粒剤を『キスジ防除の要に』使用されています。継続して品質・収量を安定化させて、さらなる規模拡大へ

——『だいこん100ha達成』という東村さんのビジョンの実現が、リアルに感じられるリモート取材でした。



※コメントは取材当時の個人の感想です。本内容は2021年7月取材時のものです。

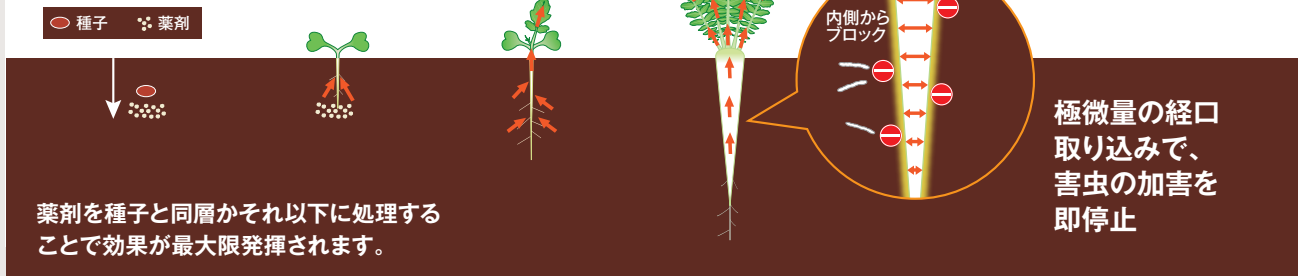
取材動画はこちらから➔



## プリロツン®粒剤オメガの特長

**キスジノミハムシの加害をだいこんの内側から守る**  
根から吸収され、食害を速やかに停止させます。

### プリロツン®粒剤オメガの作用モデル



だいこんの外側からキスジノミハムシを守る、接触やガス効果など、作用性の異なる他剤との併用で、より優れた食害防除が可能です。

### キスジノミハムシ以外の害虫も同時に防除

- アブラムシ類(ウイルス病の媒介を防ぐ)
- コナガ、アオムシ、ハイマダラノメイガ、カブラハバチ(葉の食害を止める)
- ネキリムシ類(欠株を生じさせない)



**より高い効果で  
キスジノミハムシを  
防除するために。**

プリロツン®粒剤オメガの散布は、  
適度な土壤水分が確保されている状態  
もしくは降雨の前後をねらって行う  
粒剤のため、水分を得ることで有効成分が溶出し、  
高い効果を発揮します。

**収穫までの  
防除体系を組む**  
散布剤で地上のキスジノミハムシ  
成虫密度を抑える事で、  
根部の被害も予防します。

### 適用害虫と使用方法

2022年10月26日現在

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む 農薬の総使用回数
だいこん	コナガ、アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ カブラハバチ類 キスジノミハムシ ネキリムシ類	6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	4回以内 (は種時までの処理は1回以内、 は種後の処理は3回以内)

その他の適用作物:キャベツ、はくさい、ブロッコリー、レタス、ピーマン、トマト、ミニトマト、きゅうり、なす、すいか、メロン、ねぎ、畑わさび、なばな類

- ラベルをよく読んでください。
- 記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 防除日誌を記帳しましょう。

©2023 FMC Corporation. All Rights Reserved. FMC、FMCロゴ、®を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

PRY-GLD1A



**日産化学株式会社**

東京都中央区日本橋二丁目5番1号  
ホームページ <https://www.nissan-agro.net/>  
お客様窓口 TEL.03-4463-8271 (9:00~17:30 土日祝日除く)

製品情報は  
こちらから➡

